



社会医療法人近森会

発行

2015年2月25日

# びろっば

# 3

# Vol.344

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel. 088-822-5231 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 川添昇

## 病理解剖体慰霊祭の実施

ご献体していただいた方々のご慰霊と解剖を承諾くださったご遺族の皆様に感謝の気持ちを込めて

近森病院病理診断科部長 円山 英昭



当院の平成26年度病理解剖体慰霊祭はご遺族の皆様、および診療に関係した職員が参列して、平成27年2月21日（土曜）の午後1時30分から2時30分まで会議室で行われました。

患者さんが亡くなられ、主要な病態がなお明らかでない場合、それらを明らかにするため、時には診療の検証をも含めて、全身をより詳細に観察出来る病理解剖を主治医からご遺族の皆様にお願ひしています。

こうしたときは大切な方が亡くなられたばかりで、深い悲しみのなかにあられるので、ご心情はいかばかりかとお察しいたします。ご遺族が承諾された場合は病理医が解剖を担当します。

病理解剖の結果は、解剖後一週間以内に主要肉眼所見が主治医に報告され、さらに顕微鏡観察のために組織標本を作成し、組織診断報告書が出来ます。その後、当院では初期臨床研修医が主治医の指導下にて、臨床事項をまとめ、CPC（臨床病理検討会）で発表し、CPCでの検討結果が病理解剖の最終診断となり、主治医からご遺族に報告されます。

初期臨床研修医は国家試験合格後、2年間、臨床の現場で研修を行う若手医師です。この間、診療に必要な知識や技能を習得することが義務付けられており、病理解剖に関しては、解剖の見学、CPC参加、CPCレポートの作成などが求められます。

CPCには、ご献体していただいた方の主治医、関連する臨床医や病理医などが一堂に会し、それぞれの立場から意見を交換して、病態を多方面から、



▲初期臨床研修医がまとめたCPCレポート集1～8巻

より詳細に考察します。

CPCレポートは初期臨床研修医がCPCで報告した臨床事項に、病理解剖結果を加え、指導医の指導を受けながら、病態について考察を重ね、レポートとしてまとめあげ、研修管理委員会が承認したものです。

各レポートでは初期臨床研修医のすべてが、ご献体していただいた方々のご慰霊や解剖を承諾くださったご遺族

の皆様にも心からの感謝の気持ちを述べています。

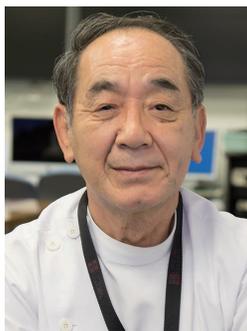
私たちは患者さんが亡くなられた後も病理解剖を通して多くを学ばせていただいています。それらの経験をも基盤として、最善、最適の医療の実践を目指します。

このたびは慰霊祭にご参列いただきありがとうございます。合掌。

えんざん ひであき

# 医師臨床研修制度と 地域医療

近森病院副院長  
内科部長 浜重 直久



2004年（平成16年）に新医師臨床研修制度がスタートしました。

従来は多くの医者が大学病院の医局に在籍し、経済的に不安定な立場で専門にかたよった研修をしていたのを、アルバイトをせずに研修に専念し、プライマリーケアの基本的な診療能力を身につけられるようにと考えられたも

ので、それなりに大きな成果をあげています。

マッチング制度の導入で研修先を自由に選べるようになった結果、研修医は都市部に集中し、また、大学病院より臨床研修病院を選ぶ傾向が強くなりました。

私が医者になった1970年代には

90%以上、新制度施行前には70%以上が、母校や出身地の大学病院の医局に入局していたことを思うと隔世の感があります。

その結果、地方の大学病院の医局に残る医者が減り、郡部や過疎地の病院に医師を派遣できなくなり、あちこちで医師不足が大きな問題になってきています。

近森病院には毎年10人近くの新研修医がきてくれて、新制度の恩恵を受けていますが、地域医療全体としてみると深刻な問題で、大学入試時の地域枠の拡大や地域医療再生機構の活動などを通して、郡部の病院に安定して医師を確保する新しいシステムを構築することが、全国的に大きな課題となっているようです。

はましげ なおひさ

## ■ 看護部業務改善活動報告会

2015年1月24日

### 各部署での 日常業務のなかの問題点 を取り上げ



近森会業務委員会  
近森リハビリテーション病院  
4階東病棟看護師長 梅木 まき



▲管理棟3階会議室で行われた業務改善活動報告会

今年1月24日（土）に近森会グループの業務改善活動報告会を行いました。これは毎年行っている報告会で、今年度の発表部署は14部署でした。延べ82名の参加者があり、活気ある

報告会になりました。

各部署での日常業務のなかの問題点を取り上げ、業務改善に向けて取り組んでいる過程をQC（Quality Control・品質管理）の手法に沿って

まとめて発表するもので、毎年そのレベルは上がっているように感じました。

どの部署も今後の課題が明確にされており、更なる改善につながる報告会になったと思います。また、今回は報告会終了後に慰労会も行われ、QCメンバーの活動を労いました。

うめき まき

### お弁当拝見 31 元気の活力に



近森病院  
作業療法士 土居 正和



私が近森病院に就職して、1年が経とうとしています。夫婦共働きの我が家は、栄養が偏らないように、できるだけ自炊しようと心掛けています。

休みの日には、「一緒にお弁当のおかずを作ろう」と計画し、一度に3週間分ものおかずを作ったことも。そのなかでは献立を考えたり、それぞれの職場での出来事を話し合うなど、夫婦水入らずの大切な時間にもなっています。

そうして出来るお弁当は、私が今日を



元気に迎える活力になっています。

どい まさかず

### 2014年度看護部 業務改善活動報告集



日時：平成27年1月24日（土）8:30～12:00

場所：管理棟3階大会議室 1・2

主催：看護部業務委員会

▼石巻赤十字病院看護部  
感染管理認定看護師西條美恵先生

# 東日本大震災時の感染管理と 病院対応の実際



近森病院副院長  
感染対策委員会 委員長 北村 龍彦



東日本大震災は、日本中の災害対策が災害医療も含めて根底から見直されるきっかけとなった、大きな出来事でした。

このたび、災害医療の拠点となった石巻赤十字病院の西條美恵先生に、感

染管理認定看護師として現場で実践された経験を臨場感たっぷりに講演していただきました。

日々生じたさまざまな課題に対して限られた資源のなかで対応された体験は、近森病院や高知県の災害時医療対策に非常に有益でした。近森病院からもDMAT、JMATとして石巻赤十字病院に馳せ参じてお手伝いをさせていただき、講演のなかで感謝のお言葉もいただきました。

講演の最後には今後の課題として、

施設内や地域において感染予防・管理の専門家として大災害に対する事業や計画に積極的に参画していく必要性を強調されました。

参加者の皆さんとともに、たくさんの教訓を共有できた素晴らしい講演でした。

きたむら たつひこ

## 図書室便り (2015年1月受入分)

- 肩関節外科手術テクニック写真 WEB 動画で理解が深まる / 菅谷啓之 (編著)
- 実践! 手・手指外傷の診断・治療のテクニック写真 WEB 動画で理解が深まる / 田中寿一 (監)
- 急性中毒情報ファイル第4版 / 森博美 (他編著)
- 超音波検査士認定試験対策過去問分析～出題のポイントで学ぶ基礎編改訂版 / 東京超音波研究会如月会 (編著)
- 今日の治療薬解説と便覧 2015 / 浦部晶夫 (他編)
- 医学教育の理論と実践原著第2版 / John A. Dent (他編著)、鈴木康之 (他監訳)
- 医療訴訟のここがポイント注目判例に学ぶ医療トラブル回避術② / 日経メディカル (編)

## 《別冊・増刊号》

- 別冊医学のあゆみエコヘルス 21世紀におけるあらたな健康概念 / 五十嵐隆 (編)
- 別冊医学のあゆみ小児用ワクチン Update 2015 / 門司和彦 (他編集)
- 臨床放射線第59巻別冊日常診療のための放射線被曝の知識 / 齊藤勉 (他編集)
- 臨床精神医学 43巻増刊号 日本の精神科医は米国 DSM-5 をどう読むか / 「臨床精神医学」編集委員会 (編集)
- Emergency Care 2015 年新春増刊 なぜ? どうして? こんなときどうしよう? をエビデンスつきで解決!
- 救急看護おたすけQ & A99 / 阿久津功 (編著)

## 《視聴覚資料》

- Audio-Visual Journal of JUA Vol.21 No.1 / 日本泌尿器科学会 (企画・監修)

## 意識の違い



近森 正幸

先日、名古屋市の東に位置する三河地区の病院経営研究会に呼ばれて講演を行なったが、後の懇親会で驚いたのは、病院トップの「地域医療構想」に対する意識の高さであった。

今年は厚労省による「地域医療構想ガイドライン」が設定され、県単位での地域医療構想の策定が行なわれようとしている。三河は行政区とそれを超えた交通の発達による診療圏があって、患者さんの流れや実情に合わない

行政区画などの難しい問題がある。そんななかであっても、各病院がその特徴を伸ばしながら互いに足りない部分を補填し合うという、地域医療を支えるための懸命な努力を行っていることにたいへん感銘を受けた。

人口の減少にもかかわらず人口当たりの病床数は全国平均の二倍、在院日数も長く、入院医療費は全国一の高知県が「地域医療構想」の最も端的なモデルとされ、6割の病床がカットされるといわれている。医療機関は「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」に分類され、「慢性期」に当たる療養病床のベッド数は半数以上を占め、もっとも厳しい。このような状況において、地域医療を守るためにはスクラップアンドビルドは欠かせない。

今後どうしていくのか最も真剣に考えなければならないが、どれだけの医療人が、これからの高知の地域医療のあるべき姿を考えているのだろうか。いままっとも必要なことは大きな視野をもって、前向きに地域医療の未来を考え実践することなのではないか。

理事長・ちかもり まさゆき

## AO Advanced Course に参加して

近森病院整形外科  
科長 三宮 将典



AOは、骨折治療の研究と教育を行っている世界的な機関であり、その総本山がスイスのダボスにあります。一年に一回、ダボスでコースが開催されており、Basic、Advanced、Master、Pelvic、Spineなどさまざまなコースが行われています。今回、私はAdvanced Courseに参加してきました。

ダボスは標高1560mにある人口1万人程度の田舎町ですが、ダボス会議の開催地として知られております。

コース内容は四肢骨折に関する講義と骨モデルを用いた実技、10人程度の小グループでのディスカッションとなっており、すべて英語で行われます。

とくにディスカッションでは皆の会話内容が理解できない事態に陥りました（グループはドイツ、ギリシャ、ノルウェー、イタリア、イスラエル、タイの方たち、日本はひとり）。

どこの国の方も英語が流暢であり、英会話の重要性を改めて思い知りました。

さんのみや まさのり

## 最先端の技術と知識を研鑽

近森病院整形外科  
医師 中山 雄平



AO (Arbeitsgemeinschaft für Osteosynthesefragen) とは、1958年スイスで創設された骨折治療の研究グループで、今や国際的組織に発展し、その理論、技術、教育方法は現在の global standard となっています。今回は世界各国千人以上の参加者が集い、毎日早朝から座学、模擬骨での手技実習、小人数討論を行いました。

座学や討論は、当院の朝のカンファと違いを感じることはありませんでしたが、海外の卒業後5年目前後の整形外科医の知識の豊富さを、垣間見ることができました。折に触れて、骨折界レジェンドや著明な講師に直接質問する機会があって、tips (豆知識、小ワザ) を聞いたことが収穫でした。

Advanced Courseに参加したことで、master コースの受講資格や fellow ship の応募資格が得られました。

今後は他コースへの参加及び AO fellow ship に apply し、最先端の技術と知識をさらに研鑽していきたいと思っております。

なかやま ゆうへい



## リレーエッセイ

### 季節を感じる大切さ

近森病院透析室看護師 影山 佐織

ほんの少し前に歳末だと思っていたかと思えば、あっという間に新年を迎え、新年が始まった実感を味わう間もなく、早くも新年度を迎える時期になっていてビックリします。

1カ月が本当に早くて、目まぐるしい速さで過ぎていきます。昔から「1月はいく」「2月はにげる」「3月はさる」といわれますが、最近はこの速さに驚かされるばかりです。

先日、散歩に出た際に近所の桃の木にかすかに蕾が付き始めているのを発見しました。まだまだ寒さが残る毎日だというのに可愛らしく感じました。毎日時間に追われながらも、ふと立ち止まる時間の大切さを改めて感



じました。

その小さな蕾をジッと見ながら、「そういえば、季節の旬の野菜や果物を食べたり、季節折々の草花を飾ったりするのは大切なことだと教えられたなあ」とふと思い出しました。最

近、自分はできているのかと考えてみる機会になり、立ち止まって考えてしまいました。

1月はお節料理に七草粥、2月は恵方巻にバレンタインのチョコ、3月は雛まつりのちらし寿司などなど。頭のなかに四季折々のおいしい食べ物がめぐってきて、自分の食い意地にビックリしました。

蕾の発見から、感傷的に眺めていたはずだったのに、結局のところ食べることが大好きで、旬のものにパワーを貰っているのだと考えさせられました。

リフレッシュのひとつとして、日々の中に季節や旬を感じる食べ物を取り入れながら、おいしいスイーツもたっぷり味わっていききたいものです。

かげやま さおり

# 学び続けていく姿勢を大切に

近森病院脳神経外科

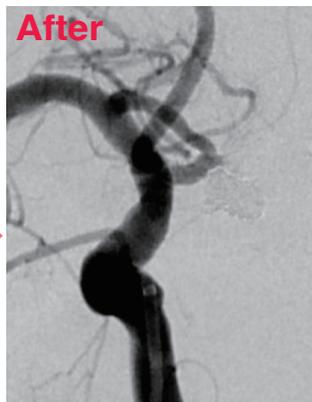
医師 西本 陽央

脳血管内治療とは脳血管のカテーテル治療のことで、脳動脈瘤の「コイル

塞栓術」や、脳血管の閉塞を開通させる「再開通療法」、頸動脈の狭まりを拡げる「頸動脈ステント」などがあります。



Before



After

▲脳動脈瘤にコイルを詰めて閉塞させるコイル閉塞術



▲カテーテルで血栓を回収する再開通療法



▲縦2ミリ、横3ミリ程度の回収された血栓

開頭手術のデメリットを補える部分があり、状態に応じて使い分けすることが大切です。なかでも、メスでは直せない病気として急性期脳梗塞に対する「再開通療法」では力を発

揮します。

脳梗塞に対するtPA静注療法（点滴で血栓を溶かす方法）は大きな血管がつまっている場合には効果が低く、発症から4時間30分以上経過している方には使用できません。そこで、カテーテルで血栓を回収する治療を行います。

大きな血栓がとれて劇的に回復される方もおり、とても嬉しい瞬間です。

この治療は時間との勝負ですので、皆で仕事を分担し、協力して行うことが最も大事です。これからも脳血管内治療を学び続けたいと思います。

にしもと よう



▲救命救急センター根岸センター長の書いた本とともに

「日本病態栄養学会ランチョンセミナー」

2015年1月10～11日

## 連日二枠講演

近森病院臨床栄養部

科長 佐藤 亮介



佐藤亮介



宮澤 靖

京都で、第18回日本病態栄養学会年次学術集会在開催されました。例年通り演題発表を中心に当臨床栄養部も参加をさせていただきましたが……。

更に今回はランチョンセミナーの講師枠を「2枠」当院に与えていただくという、名誉な機会も得ることができました。当該学会で「同一施設、同一部署」からの、ランチョンセミナーへの講師選出は初のことで、他学会でもあまり例を見ないとのことでした。

両講演とも盛況のうちに終わることが出来ましたが、これに奢ることなく次年度、もしくは他学会でも同様に、評価をいただけるよう精進して行きたいと考えております。

さとう りょうすけ



### ● 講演内容 ●

演題名：「これからの栄養管理

～患者さんが教えてくれた事～

演者：近森病院臨床栄養部科長 佐藤亮介

座長：医療法人社団悦伝会目白第二病院

副院長 水野英彰先生

演題名：「臨床栄養における

アミノ酸のもつ臨床効果

～オルニチンの可能性～

演者：近森病院臨床栄養部長兼

栄養サポートセンター長 宮澤靖

座長：医療法人財団松園会

東葛クリニック病院副院長

秋山和宏先生

前と、上を向いて



医療福祉部  
部長代理  
川津 奈加

医療福祉部の大きな節目に、部長代理を拝命しました。不安を口にすればきりがありませんが、先輩方からいただいたたくさんの財産を胸に、前と上を向いて進んでいきたいと思っています。

医療福祉部が真に患者さんやそのご家族の力になるソーシャルワーカー集団であるよう、一生懸命努めてまいります。

かわつ なか

気を引き締めて



近森リハビリテーション病院  
医療相談室室長  
宮川 あゆみ

新年度へ向け、医療福祉部は新たな体制を迎えることとなりました。リハビリテーションに取り組む患者さんやそのご家族の社会復帰を支援するソーシャルワーカーの一員として気持ちを新たに頑張りたいと思います。

それと共に、同じ業務にあたる医療福祉部員を後方からしっかりと支えていけるよう、より一層努力していきたいと思っています。

みやかわ あゆみ

「拙守求真」を忘れずに



近森リハビリテーション病院  
医療相談室主任  
恒石 千寿代

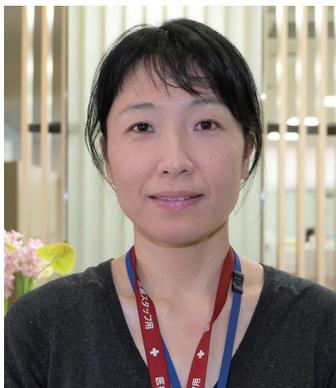
「拙守求真」(せっしゅぐしん)これは「まだまだ自分は至らないのだという謙虚な気持ちで努力すること」だそうです。

仕事や趣味の武道をする上で大切にしている言葉です。実際に実行することは難しいことですが、折にふれ自身を戒めてくれます。

力不足ではありますが、与えられた役割を担えるよう努めていきます。

つねいし ちずよ

誠実に



近森病院地域医療連携センター  
主任  
西森 史

この度、主任心得を拝命いたしました。ソーシャルワーカー、他職種の皆さんにご指導いただきながら、なんとか日々業務をしておりますので、身の丈より大きな服をいただいた気持ちでおります。

今後もスピード感を持ち、誠実にソーシャルワークを行えるよう努めていきますので、どうぞよろしく願いいたします。

にしもり ふみ

## 医療福祉部の野村真紀部長が退職されます。

### 若い力に後を託す

医療福祉部  
部長 野村 真紀

「これからの医療は透析とリハビリテーションとソーシャルワーカーだと院長がってますので」と採用されたのは35年前。今でこそ、医療ソーシャルワーカーは患者の立場に立った福祉職と周囲に認識されていますが、当初私は「何する人？」と問われても答えに窮しておりました。

なにをするのが私の仕事なのかと自問自答しながら、皆さんに教えられ、育てられ、自分なりの答えを探し求めてきた日々だったと、あらためて思います。

後輩には私を踏み越えて先を行ってもらわなければ、自分が存在した意味



がないと思っています。医療福祉部新管理体制の面々は、私を超えて、更に向上、発展させる力を持った後輩です。そんな彼女たちに今後を託せることが何より嬉しく、ひと仕事終えた安堵感で一杯です。

のむら まき

# 乞！熱烈応援

臨床工学部、医事課篇

反面教師ですが…

心こそ大切なれ

日々成長し



近森病院臨床工学部  
血液浄化チーム主任  
岡本 歌織

「こんな忙しい病院で役職に就くなんてまっぴらごめんだね」そう思い続けていました。

何事も最短最少で済ませたい性分で、おまけに江戸っ子並みに気が短いときた。こんな反面教師な私ですが、これからは一呼吸おいてBe Cool! と心に刻み、スタッフの育成、組織強化、業務の効率化など取り組んでいきたいと思っています。

おかもと かおり

## 新たなスタート



診療支援部  
医事課主任  
奥田 美保

この度1月16日付けで主任心得の辞令を拝命しそれに伴い入院担当から外来担当へと異動となりました。

新たな立場での異動ということで不安だらけの毎日ですが、周りのスタッフに助けられながらなんとか努めています。

一日も早く医事課内だけでなく病院全体に貢献できるよう日々精進していきたいと思っています。

おくだ みほ



近森病院臨床工学部  
血液浄化チーム主任  
藤本 のぞみ

近森病院へ就職してから10年が経とうとする今年の1月16日、主任心得を拝命しました。

血液浄化チームの臨床工学技士として、腎透析センターの課題に向き合いながら、他職種の仲間と協力して、患者さんの為に何ができるか、初心を忘れることなく、少しずつですが取り組んで参ります。

ふじもと のぞみ



近森病院臨床工学部  
CS チーム主任  
豊永 哲郎

CSチームの業務は血管内治療や不整脈治療を行う医師のサポート役です。緊張感の漂う職場ですが、無事、手技が完了したときの成功を喜び合う達成感心地良く、やりがいのある職場です。

今回、1月16日付けで主任心得の辞令を頂きました。まだまだ未熟ですが、心強い後輩と共に日々成長していきたいと思っています。

とよなが てつろう

## 勤怠システムが稼働

# 紙タイムカードからICカードへ

管理部総務課課長 小松 左和

▼向かって左から筆者、中脇、楠瀬

念願の勤怠システムを導入することができました。紙タイムカードからICカードに変更。超勤票や休暇申請など紙ベースのものはほとんど無くなりました。勤怠システムは基幹ネットワーク上にあり、24時間いつでも操作が可能です。電子カルテと同様に慣れれば利便性を実感してもらえると確信しています。

病院の勤務は一般企業と違ってたいへん複雑です。また昨今ではワークライフバランスの観点により多様な働き方も増えています。そのため今回設定した勤務コードはその数500を超えており、各部署からの要望で増え続けている状況です。管理が煩雑だという理由で導入できていない時間有休なども、このシステムの設定次第で今後は



廃止になった書類の山

導入が可能になります。労務管理に有効利用して、働きやすい職場環境作りに繋げていきたいと考えています。

こまつ さわ



## SHD (Structure Heart Disease) 診療における心エコーの役割

※ SHD: 弁膜症や先天性心疾患など、心臓の構造に関連した疾患

近森病院循環器内科  
部長 窪川 渉一

近年、SHD に対するカテーテルなどを用いた低侵襲な手術が進歩してきており、当院でも昨年末 TAVI (経カテーテル的大動脈弁置換術) がスタートしました (ひろっば 1月号)。その手術を安全に成功させるための心エコーの重要な役割について、大阪大学の中谷敏先生にご講演をいただきました。

術前の精密な診断から安全に手技を行なうための術中モニターまで、豊富な画像を用いた臨場感のあるお話で、院内外から多数参加いただいた多職種の方々もこの新しい治療への理解が深まったのではないかと思います。

さらに今後登場する新しい人工弁や手術方法など、夢のような近未来の治



療法も紹介していただきました。

くぼかわ しょういち

### 私の趣味

## サッカー

診療支援部システム管理室  
葛目 悠輔



自分の数ある趣味のうち、今回はサッカーについて書いてみたいと思います。

最初にサッカーに興味を持ったのは皆さんご存じの漫画「キャプテン翼」を見てからです。この漫画の影響力は絶大で、アラフォーの男性職員の皆さんはオーバーヘッドキックやドライブシュートを真似したことと思います。また世界中で親しまれており、元イタリア代表のトッティはオーバーヘッドキックの練習をずっとしていて怒られた逸話があります。

これが自分のなかでの第一次サッカーブームで、第二次はJリーグが創設されたときに来ました。当時はサッカー部に所属し、キャプテン翼とは違う現実的な技術を磨いていました。部員の数もJリーグ効果で一気に増加し、自分とは関係ない所でのスタメン

争いも今では良い思い出です。余談ですが同時期に明德義塾高がブラジルから助っ人を連れて来た噂になりましたが、それが後の日本代表にもなる三都主アレサンドロと知ったのも良い思い出です。

現在は日韓ワールドカップから続く第三次ブームの真っ最中



で、今年は念願だったFCバルセロナのホーム「Camp Nou」でサッカー観戦ができました。自分にとってCamp Nouは聖地なので巡礼できたことはとても幸せです。バルセロナはサッカー抜きでもとても素敵な街なので、皆さん一度は訪れてみてはどうでしょうか。

くずめ ゆうすけ

### ハッスル研修医

## 縦読み



初期研修医 岸本 達真

気がつくと働き始めてはや1年が経過しようとしてしていることに充実感とともに焦りを感じています。研修医1年目として働いています岸本達真といいます。

たくさんの患者さんと接する中で、いくつもの疑問点がみつきり、1つ1つ学ぶ毎日です。近森での研修は現場での経験を大切にしている、実際に経験した事はよく頭に残ります。研修がはじまったころに理想の医師像でもある「全ての人に親切に接する」という目標を立てました。くるしい時こそ初心を忘れず、励もうとおもいます。

年度が変わり4月からは新しい研修医が入社します。人に教えるということがいちばん勉強になるので、気軽に質問してもらえよう、勉強してますます研修にはげみたいと思います。

いつも優しく支えてくださる先生方やコメディカルの方々に感謝して、今後も頑張ります。あと1年よろしく願いたします。

きしもと たつま

## ■第141回地域医療講演会

2015年2月7日

## 怒っている人は「困っている人」

▼水島広子こころの健康クリニック  
水島広子先生

近森病院総合心療センター  
作業療法室室長 山内 学

平成27年2月7日に水島広子こころの健康クリニック院長の水島広子先生に「臨床や職場におけるこころの折れない怒りのあつかい方」を講演していただきました。今回は法人内外から106名という多くの立場での参加者がありました。

怒りの意義から始まり、コミュニ

ケーションにおける役割期待のずれが広がることでの問題は、臨床や職場での具体的な場面と重なりました。特に『自分も他人も……、怒りに巻き込まれないためには、怒っている人は「困っている人」と理解していくこと』については多数の参加者が頷いていました。先生の温かい人柄を感じながら、足し算の発想となる「増し」をこころに入れようと素直に思える講演会でした。書店において著書もありますので



是非、お読みください。

やまうち まなぶ

## 近森病院・防災訓練／DisasterABC コース開催

2015年1月31日

## 200名以上が参加して

災害対策委員会委員長  
呼吸器外科部長

山本 彰



▲多数傷病者の受入を想定  
▼本部機能

## 大規模事故を想定

昨年8月のA棟の完成に伴い、新しいERを使用した初めての防災訓練を開催、大規模な自動車事故に伴う多数傷病者受け入れを想定した実働訓練で、見学者を含め200名を超える参加者がありました。

今年度はとくに診療現場のERと災害対策本部の連携に重点を置き、以前に比べ正確迅速に情報が届き、災害対策本部が機能していました。昼は備蓄食(牛丼)の試食と、起震車による震度7を約80名が体験し好評でした。

## 災害医療研修 DisasterABC コースの開催

午後は DisasterABC コースを富山大学の有嶋拓郎先生、関東労災病院の東岡宏明先生などをお招きして開催。医師、看護師、コメディカル混成の3グループ(48名)が、トリアージ、治療、災害対策本部運営の三つのスキルを学び、その上で、各グループがそれぞれのエリアを担当する訓練を3回行いました。災害医療は医師、看護師だけでは行えるものではなく、情報管理を中心にロジステック(事務部門)を含め、全体で取り組む必要があります。

夜間、休日には、院内にいる人員で災害医療の初動体制を構築する必要があり、この研修コースでは各職員がそれぞれのエリアの体験をすることで、お互いを理解でき、今後に生かせると考えられました。

午前中は指定職員を中心とした「役割固定型」の実働訓練を行い、午後には在院するスタッフを中心とする「役割変動型」の病院訓練研修コースを経験した充実した一日となりました。

やまもと あきら



近森会グループ  
看護部

## 看護部パンフレットが完成しました。

近森会グループ看護部パンフレットが出来ました。就職二年目看護師が中心となり、これから看護師となる看護学生さんをおもな対象として制作しました。皆さんご協力ありがとうございました。

## ニューフェイス

①所属②出身地  
③最終出身校  
④家族や趣味のこと、自己アピールなど



浅羽 宏一

あさば こういち ①総合診療科部長②岩手県盛岡市③高知医科大学④専門は内分泌・代謝・糖尿病内科ですが、漢方薬や鍼灸についてもある程度、知識があります。お気軽にご相談下さい。

## ぶどう品種を知り、個性を探る 黒ぶどう その⑥

### カベルネ・ソーヴィニヨンその2

私たちが最も支持し、親近感があるのが、ニューワールドのカベルネ・ソーヴィニヨンで造られたワインかもしれません。

ワイン産地を大きく分けると、ヨーロッパを中心とする伝統的な国々と、ニューワールドと呼ばれる新興国があり、新興国の代表がアメリカ、そしてオーストラリア、ニュージーランド、チリ、アルゼンチン等。この国々で生産されるワインのラベルには、ぶどう品種がワイン名になったり、表記されていることが多く、飲まなくても分りやすく、その風味を想像することもできます。

カベルネ・ソーヴィニヨン／ボークル・ヴィンヤーズ／アメリカ、カリフォルニア州●ぶどう品種の個性が感じられ、その味わいストレートに表現されています。コストパフォーマンスを感じさせる、リッチでしなやかな味わい。

カベルネ・ソーヴィニオン種は、フランスのボルドー地方を頂点に、様々な国で栽培されていますが、ボルドー地方とは対照的に、一般的に、ニューワールドの個性は、果実感に富み、丸みを帯びた酸味とタンニン（渋味）、年代が若くして（熟成させなくても）、十分に美味しく楽しめるワインが多く存在します。



鬼田知明 (有限会社鬼田酒店代表)

## 編集室通信

「1月行く、2月逃げる、3月去る」といいますが、大きなプロジェクトの続く近森にいるとことわざ以上のスピード感が一年中という実感。少し立ち止まって周りを見回す心の余裕も欲しいな、なんて思っていたのにいまはこれが普通。

3年前の普通、2年前の普通、去年の普通、同じ“普通”の言葉なのにその概念はどんどん変わっていきます。今年はなにが普通になるのでしょうか？（笑）山リー

### 2015年1月の診療数 システム管理室

<b>近森会グループ</b>	
外来患者数	17,245人
新入院患者数	811人
退院患者数	764人
<b>近森病院（急性期）</b>	
平均在院日数	16.03日
地域医療支援病院紹介率	58.12%
地域医療支援病院逆紹介率	142.06%
救急車搬入件数	450件
うち入院件数	228件
手術件数	410件
うち手術室実施	264件
→うち全身麻酔件数	161件

● 平成27年1月 県外出張件数 ●  
件数 33件 延べ人数 48人

# 仕事もオフも風通し良く



## 納得してケアに当たれるスタッフ教育

検査室に呼ばれた入院患者さんたちがどのような検査を受けたのか、内容を具体的に知れることで、こういうことに注意を払う必要があると、病棟スタッフはより納得してケアに当たれる。「そんなスタッフを見て、教え甲斐を感じます」と、嬉しそうに語る高松部長の横顔は、NHK 大河ドラマで龍馬を演じた福山雅治を彷彿とさせる。爽やかな笑顔が印象的である。

「福山に似ているなんて、みんなに怒られますよねえ……」と照れる仕草の柔らかさまで、何だか福山っぽい。

## 仕事のやり甲斐

お世話になった岡山大学の医局から派遣されたのが当時の高知県立中央病院消化器科だった。

自分自身が関わったことで患者さんがよくなってくれるという喜びや満足感を味わい続けられるのが、いまのやり甲斐であり、倅せでもあるという。患者さんの快復を、自分自身や自分の家族のこのように喜べるから、やり甲斐に繋がりがやすいともいえるのだろう。

## 枠にハマらないだらかさ

医者になったのは、臨床検査技師だった父親に、医療関係に進むなら医者を目指した方がいいと、アドバイス

を受けたためだったが、親から勉強しろといわれたことも、何かをやれ！といわれたような記憶もない。

自由というのか放任主義というのか、枠に嵌められずに伸び伸びここまで来たことが、いまのだらかさや周りへの溢れる優しさに繋がっているようでもある。自分に余裕があるのだろう。

そもそも、子育てはこう在るべき、医者はこう在るべきという発想がないし、「仕事のモットー」を考えたこともない。これが、自分の信じる方向に感性のまま伸びてきた高松部長の、実は芯が太いところなのかも知れない。

## 症例の多い近森病院で働きたい！

高知県立中央病院のあと、誘われた民間病院で働いていたが、5年半前に近森病院に就職した。「若い、身体が動くうちに救急を経験したい」という希望を元看護師の妻に伝え、近森病院が症例も多く、勉強になるのではないかと勧められたのがひとつのきっかけだった。

ここでもまた、極めて素直に妻のアドバイスにしたがったわけだが、医学部を志した高校時代と大人になってからも、素直さは変わらないということなのだろう。

いま、消化器内科の一員として、「皆がとても仲良く、和気あいあいと仕事ができるのが嬉しい」そうだが、高松部長の穏やかな雰囲気、全体の空気を和らげてもいるのだろう。

## 目指すは短時間の最短距離

さらに、「内視鏡検査を受ける患者さんは、それだけでしんどいのだから、いかに短時間で正確にやれるかが、いちばんの目標」だし、「検査自体、薬自体をいかに少なくするかに力を注ぎたい」とも語る。この発想は、「数学だけが得意でした。一つの答えを導き出すのに、最短距離でいかにうまく解けるかが面白かった」という、学生時

代の嗜好が、そのまま今日の仕事に繋がっているともいえそうだ。

## 風通しの良い暮らし

ところで、休める休日を繋ぎ合わせて実は大型のバイクの免許を2年前の秋から春にかけて取ったそうで、「たまに、独りでゆっくりバイクに乗っている」。冬は寒いし、夏は暑いし、バイクだけで重量270キロもある重たくて危ないシロものを…、乗らない人からは理解され難いようだが、「車とは違った解放感や風の心地よさは、いちど味わうとクセになるかも知れませんねえ…」と、やっぱり福山っぽい笑顔で教えてくれた。

「風」といえば、自宅は風通し、日当たり抜群の一見平屋風一戸建てである。何を大事にしたいか、仕事や家族や将来のことを考えると、「元気に働けるいまのうちに将来に備えた住まい方を見つけておきたかった」という堅実で家庭的な面も持っている。



# 校歌・校旗が決定いたしました。



校歌歌詞は保岡直樹さん（東京都）  
校旗デザインは三宮華佳さん  
（伊野商業高等学校キャリアビジネス科  
デザインコース3年生）  
の作品が選ばれました！



近森病院附属看護学校  
設立準備事務局  
事務局長 和田 廣政

今年4月開校を予定している近森病院附属看護学校の校歌と校旗を作るため、昨年9月から校歌の歌詞と校旗のデザインを、ホームページや新聞などで公募しました。

全国から歌詞は23作品、校旗デザインは42作品が集まり、このなかから厳正な審査を行った結果、校歌の歌詞は東京都の保岡直樹さん、校旗のデザインは伊野商業高等学校キャリアビジネス科デザインコース3年生の三宮華佳さんの作品が選ばれました。保岡さんは徳島県のご出身で、他校の校歌

もいくつか手がかけ、プロの歌手にも詞を提供している作詞家で、高知観光情報発信館「とさてらす」の命名も保岡さんです。校歌の曲は高知県立大学名誉教授である住友弘一先生にお願いして作っていただきました。

校歌と校旗ともに、いずれも瑞々しい感性に溢れていて、新しい学校のシンボルとして相応しく、いよいよ開校が待ち遠しい気持ちです。心のこもった誠意ある作品をご応募いただいた皆さんにも深く感謝申し上げます。

早速4月7日（火）の近森病院附

属看護学校の第一回入学式でお披露目される予定です。校歌は本校のホームページでも聴くことができますので、ぜひ一足先に新しい学校の雰囲気を感じてみてください。

校歌はQRコードからもアクセスできます



わだ ひろまさ

近森病院附属看護学校 校歌

作詞 保岡直樹  
作曲 住友弘一

1. 清き高知の 青空に  
高く掲げる 十字の旗よ  
風にはためく 旗の波  
光る自由と しなやかさ  
研ごう英知を 若い芽を  
伸びゆく 近森看護学校

2. 人の痛みにより添って  
分かち合いたい 希望と笑顔  
地域医療の 杖となり  
ともに手をとり 歩む道  
謳おう生命を ふれ愛を  
育む 近森看護学校

3. 拓く豊かな 人間性  
学び深める 知識と技術  
夢を語らい 励み合い  
あすへ躍進 たくましく  
照らそう未来を しあわせを  
翔ばたく 近森看護学校

## 3月の歳時記

### チューリップ 薬剤部 今井 怜美



チューリップの名前の由来はトルコ人が頭に巻いていたターバン(tulipan ツウリッパ)に花姿が似ていることからきているようです。現在では多くの品種が出ていますが色別に花言葉があることをご存じでしょうか？

チューリップ全般の花言葉は「思いやり」です。赤は愛の告白、白は純粹、ピンクは幸福、黄は望みのない恋、そして紫は不滅の愛、です。色によって色々な意味があることに驚きますね。  
いまい さとみ



絵・近森病院  
附属看護学校  
設立準備事務局  
公文幸子

## 職員旅行

今回はチェコ共和国のプラハの町やチェスキー・クルムロフ城を散策しました。

▼プラハ城、守衛さんと一緒に



▼彫刻が並ぶブラハの象徴、カレル橋にて



▼チェスキー・クルムロフ城と旧市街の街並みを背にガイドさんと♪

